

inabe nauto

[inabe nauto]

「いなべ」といえば「黄色い電車」。田舎町に映えるかわいらしい電車は、このまちを代表するシンボルの一つだ。

2号では、今年、開業90周年を迎える三岐鉄道を特集する。

このまちの経済発展に寄与してきたであろう三岐鉄道と私たちの暮らしには、どのような関わりがあるのか。

その歴史を振り返りながら未来を紐解き、「電車」の今を考える。

後半は、「いなべをカタチづくる」と題し、今年11月に選挙を控える「いなべ市議会議員」について。そして、コロナ禍の今だからこそ、「地元」の可能性を追求するべく立ち上がった新たなる2つの事業を紹介する。

「まち」をつくるのは、そこに暮らす「私たち」。

自分たちが暮らすまちで起っていることを知り、関心を持ち、必要であればアクションすること。

それは、自分たちの「夢」や「未来」への道をつくっていくことでもある。



CREDIT

アートディレクション/デザイン：北住尚己（エコムクリエーション）
デザイン：本郷玄真（エコムクリエーション）、下村文香、山下生苗（grame design）
写真：浦田剛秀、松永ひとみ
講会ページイラスト・デキスト：川瀬知代
チキスト制作：本郷玄真（エコムクリエーション）
プロデュース、進行：若木愛美（グリーンリンクエイティイブいなべ）
企画協力：三岐鉄道、太平洋セメント、彩電館たかはし、いなべ市議会議員の皆さま、児玉美香
企画制作：グリーンリンクエイティイブいなべ

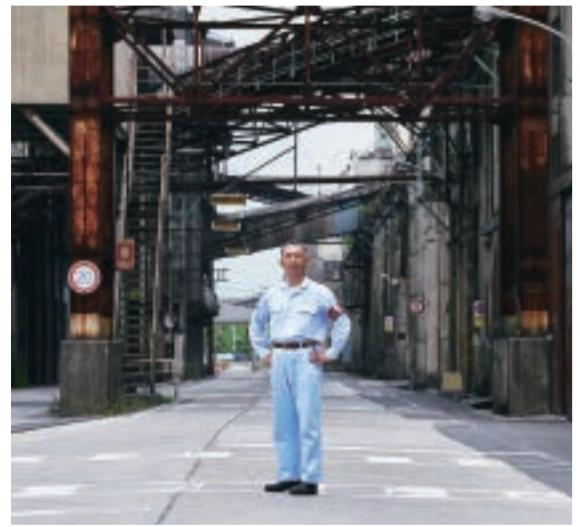
発行：グリーンリンクエイティイブいなべ
印刷：共栄堂印刷
企画制作：グリーンリンクエイティイブいなべ

- 01 特集「三岐鉄道」
05 「いなべをカタチづくる」 -1. 市議会はみんなの声をカタチに変えるところ
07 「いなべをカタチづくる」 -2. inabe's Shop Mobile-HUTTE
09 「今をしっかりと見据え、未来へ歩き出したい人々」 彩電館たかはし/eat 紗ざ

inabe Nauto 2号 2021年7月発行



[inabe nauto]



「国内唯一」セメントを積んだ 貨物列車が走るまち

現在、太平洋セメント株式会社藤原工場では、年間約180万トン、1日にして約6000トンものセメントを製造。そのうち約半分は、三岐鉄道の貨物車によって四日市出荷センターまで運搬される。

藤原工場長川辺孝治さんは、「セメントを製造することと同様に、『物資を輸送する』ということが、何より重要なポイントである。セメントは量も多ければ、重さもある。三岐鉄道さんと一緒に、初めてセメントの製造搬送が可能となり、お客様に喜んでもらえる。昭和7年の生産開始以来、藤原工場の大好きな出荷部門を担つていただいている三岐鉄道さんは、これまでの歴史と信頼があり、何ものにも代えがたい重要な関係である」と、三岐鉄道への想いを語る。

三岐鉄道が運搬するセメント貨車は、開業以来さまざまな改良を経て、今では2輌編成の機関車で16輌牽引することができる。貨車1輌に、セメントを40トン積めることから、1回で640トンものセメントが運搬可能だ。

10トントラックであれば、64台必要になり、C02の排出量等を考えると、環境に優しい運搬方法であることは間違いない。また、現

在セメント輸送の他に、碧南火力発電所へ向けて、脱硫（※）で使用する炭酸カルシウムを運搬。その後路で、火力発電所で出た産業廃棄物であるフライアッシュ（石炭灰）を積み込み、藤原工場へ届けている。このフライアッシュは、セメント原料のひとつになることから、貨物輸送は、環境に配慮した産業廃棄物処理の循環に関わる重要な役割を担っているともいえる。

「地球温暖化や脱カーボンが叫ばれる時代。三岐鉄道の機関車は電動で走るため、排ガスを出さない。それに加え、例えば、輸送に使う電力について、自然エネルギーを活用したことから、貨物輸送は、環境に配慮した産業廃棄物処理の循環に関わる重要な役割を担つているともいえる。

「地元密着で90年。開業以来、とてもつながりが深いまち『いなべ』。長い間、地元の皆さんに支えられてここまで来ることができた。今後も地域の公共交通機関としての使命を果たし、皆さんの交通手段を守つていく」と、渡邊社長は強く想いを語る。

「このような厳しい状況下であっても、社員はそれぞれの『使命』を持つて日々働いている。

今まで、誰ひとり感染せず鉄道を守り抜いているのは、社員全員の高い意識の表れでもある。安全運行。そして、安心してお客様にご利用いただける環境を日夜整えてくれることは、本当にありがたい」と、社員への敬意を示す。

今回、社員の中でも、特に三岐鉄道を愛し、日々己の使命を全うする、三岐運転区副長佐藤直志さんにインタビューした。

三岐鉄道の「使命」

「ここからは、視点を現在の客車に向ける。

「地元密着で90年。開業以来、とてもつながりが深いまち『いなべ』。長い間、地元の皆さんに支えられてここまで来ることができた。今後も地域の公共交通機関としての使命を果たし、皆さんの交通手段を守つていく」と、渡邊社長は強く想いを語る。

「このようないい状況下であっても、社員は利用いただきやすい環境を常に考え、整えていきたい。『大量輸送』『安全性』『定時性』『環境配慮』これらを存分に發揮できるのが、電車の役割だと思う。その役割を十分理解した上で、三岐鉄道では、安全安心に誰もがご利用いただきやすい鉄道を今後も目指していく」と、未来を見つめる。

このまちから、「黄色い電車」が無くなってしまった日のことを想像してみて欲しい。

日々の暮らしに、『当たり前にあるもの』が、無くなってしまった時、やっぱり必要だった……

そう思う前に、しっかりと自分たちの暮らしを見つめ、現状のまちの課題を知り、自分なりに解決策を模索してみる。今回の記事がそんな一つのきっかけになれば嬉しい。

三岐鉄道 × inabe NOWTO

Sangi RaiWay 90th Anniversary.



2021年「現在」、世間はコロナ禍。三岐鉄道をはじめ、鉄道業界はどうも闇夜の中だ。

特に昨年の春、沿線の学校が休校になつた関係で、通学定期券の払い戻しが多数あり、三岐鉄道は多大なる影響を受けた。同年秋頃に実施されたGO TO キャンペーンで、一時持ち直したかのように見えたが、年明けから各地の移動自粛要請を受け、追い討ちをかけるかのように乗車数は激減。世間の電車離れは、想像以上に進んでいる。

今回は、さまざまな視点から、三岐鉄道の「未

来」を紐解いていこうと思う。

カワイイ、田舎町に映える黄色い電車……という、若い世代の誰もが抱いているであろうイメージを超えて、その奥にある本来の姿が、今の状況を知つてもらいたい。

あなたがもし、何らかの状況で車を運転することができなくなつてしまつたら、目的地まで向かう交通手段は何を選ぶだろうか。未来はあつとい間にやつて来る。だからこそ、「電車」の必要性を改めて考えてみて欲しい。

三岐鉄道株式会社 開業に向けての歴史

鈴鹿山脈の北部にある藤原岳が、セメントの原料である石灰石でできていることに目を

まで向かう交通手段は何を選ぶだろうか。未来はあつとい間にやつて来る。だからこそ、「電車」の必要性を改めて考えてみて欲しい。

「電車」の必要性を改めて考えてみて欲しい。

翌年、東藤原駅～丹生川駅間から建設工事が開始され、昭和6年6月23日に東藤原駅～富田駅間23.1キロメートルが完成。その翌月、7月23日に運輸営業を開始した。

今年、開業90周年を迎えるあたり、三岐鉄道代表取締役社長渡邊一陽さんは、「ただ列車を走らせるだけではなく、沿線に暮らす人たちにとって、やはり鉄道があるというこ

付いた会社があつた。現在、藤原町に工場を持つ小野田セメント（現太平洋セメント）と、浅野セメント（現太平洋セメント）である。

小野田セメントは、藤原町の東藤原に工場を建設し、そこで生産されるセメントを富田や四日市に運ぶため、「員弁鉄道」を計画した。一方で浅野セメントは、藤原町の西藤原から石灰石を探査し、それを新しく四日市に建設する工場や関ヶ原（岐阜県）に運ぶため、「藤原鉄道」を計画した。このため、小野田セメント側の員弁鉄道と、浅野セメント側の藤原鉄道が開業免許取得のため競合することになり、窓口の三重県知事を悩ませたという。その後、両者の意向を汲み、鉄道の敷設を一本化することで決着。三重県と岐阜県を結ぶ計画のもと、昭和3年9月20日に「三岐鉄道株式会社」が設立された。

翌年、東藤原駅～丹生川駅間から建設工事が開始され、昭和6年6月23日に東藤原駅～富田駅間23.1キロメートルが完成。その翌月、7月23日に運輸営業を開始した。

今年、開業90周年を迎えるあたり、三岐鉄道代表取締役社長渡邊一陽さんは、「ただ列車を走らせるだけではなく、沿線に暮らす人たちにとって、やはり鉄道があるというこ



は、年間約180万トン、1日にして約6000トンものセメントを製造。そのうち約半分は、三岐鉄道の貨物車によって四日市出荷センターまで運搬される。

藤原工場長川辺孝治さんは、「セメントを製造することと同様に、『物資を輸送する』ということが、何より重要なポイントである。セメントは量も多ければ、重さもある。三岐鉄道さんと一緒に、初めてセメントの製造搬送が可能となり、お客様に喜んでもらえる。昭和7年の生産開始以来、藤原工場の大好きな出荷部門を担つていただいている三岐鉄道さんは、これまでの歴史と信頼があり、何ものにも代えがたい重要な関係である」と、三岐鉄道への想いを語る。

三岐鉄道が運搬するセメント貨車は、開業以来さまざまな改良を経て、今では2輌編成の機関車で16輌牽引することができる。貨車1輌に、セメントを40トン積めることから、1回で640トンものセメントが運搬可能だ。

10トントラックであれば、64台必要になり、C02の排出量等を考えると、環境に優しい運搬方法であることは間違いない。また、現

在セメント輸送の他に、碧南火力発電所へ向けて、脱硫（※）で使用する炭酸カルシウムを運搬。その後路で、火力発電所で出た産業廃棄物であるフライアッシュ（石炭灰）を積み込み、藤原工場へ届けている。このフライアッシュは、セメント原料のひとつになることから、貨物輸送は、環境に配慮した産業廃棄物処理の循環に関わる重要な役割を担つているともいえる。

「地球温暖化や脱カーボンが叫ばれる時代。三岐鉄道の機関車は電動で走るため、排ガスを出さない。それに加え、例えば、輸送に使う電力について、自然エネルギーを活用したことから、貨物輸送は、環境に配慮した産業廃棄物処理の循環に関わる重要な役割を担つているともいえる。

「地元密着で90年。開業以来、とてもつながりが深いまち『いなべ』。長い間、地元の皆さんに支えられてここまで来ることができた。今後も地域の公共交通機関としての使命を果たし、皆さんの交通手段を守つていく」と、渡邊社長は強く想いを語る。

「このようないい状況下であっても、社員は利用いただきやすい環境を常に考え、整えていきたい。『大量輸送』『安全性』『定時性』『環境配慮』これらを存分に發揮できるのが、電車の役割だと思う。その役割を十分理解した上で、三岐鉄道では、安全安心に誰もがご利用いただきやすい鉄道を今後も目指していく」と、未来を見つめる。



昭和40年代の旅客列車がもたらす時間と空間
三岐鉄道の客車は、昭和40年代に製造されたものが大半である。約50年経つて今は思えないほどに、車体が鮮やかで美しく、また、車内空間が快適なのは、整備士の皆さん、毎日丁寧に保守業務を行っているからである。加えて、緻密な点検業務を日夜365日絶えず行い、安全運行を死守している。

電車は、まちの魅力である
朝陽が昇る頃から、夜は日が変わることで、三岐鉄道は休むことなく毎日走る。街灯もない真っ暗なこのまちを、ヘッドランプひとつで煌々と照らし、客車の灯りだけが暗闇に浮かび上がるその姿は、まるでパト

クルみたい」という。
自分の「好きな仕事」を本気で守り抜くために。そして、共に働く仲間のために。三岐鉄道を利用する全ての人の信頼を失わないよう、熱い想いを胸に抱き、今は耐え、ただただ走り続けている社員がいることを、一人でも多くの人に知ってもらいたい。

ざ抜けたとしても、今の時代、「電車に乗つてもらうこと」は本当に難しい。だからこそ、ただ電車に乗つてもらうだけでなく、+αのソフトラインを考案したいと佐藤さんは話す。「このまちは、美しく豊かな自然はあるものの、沿線に有名な観光地がある訳でもない。例えば降りたその駅で、地域の魅力やスポットを提案し、出向いてもらう『きっかけ』をつくりたい」という。

自分の中の「好きな仕事」を本気で守り抜くために。そして、共に働く仲間のために。三岐鉄道を利用する全ての人の信頼を失わないよう、熱い想いを胸に抱き、今は耐え、ただただ走り続けている社員がいることを、一人でも多くの人に知ってもらいたい。

三岐鉄道の客車は、昭和40年代に製造されたものが大半である。約50年経つて今は思えないほどに、車体が鮮やかで美しく、また、車内空間が快適なのは、

整備士の皆さん、毎日丁寧に保守業務を行

ているからである。加えて、緻密な点検業務

を日夜365日絶えず行い、安全運行を死守

している。

電車に乗り、どんな音楽を聴こうか。踏切

の音や、走る音に耳をすましながら四季折々

美しい景色を楽しむのも良いだろう。目的

地まで、どんな本を読もうか。ゆったりシ

トに腰掛け目的地まで寝つても良いだろう。

三岐鉄道ならではの空間で、「あなただけの電

車時間」を考え、過ごしてもらいたい。

ざ抜けたとしても、今の時代、「電車に乗つてもらうこと」は本当に難しい。だからこそ、ただ電車に乗つてもらうだけでなく、+αのソフトラインを考案したいと佐藤さんは話す。「このまちは、美しく豊かな自然はあるものの、沿線に有名な観光地がある訳でもない。例えば降りたその駅で、地域の魅力やスポットを提案し、出向いてもらう『きっかけ』をつくりたい」という。

自分の中の「好きな仕事」を本気で守り抜くために。そして、共に働く仲間のために。三岐鉄道を利用する全ての人の信頼を失わないよう、熱い想いを胸に抱き、今は耐え、ただただ走り続けている社員がいることを、一人でも多くの人に知ってもらいたい。

三岐鉄道の客車は、昭和40年代に製造されたものが大半である。約50年経つて今は思えないほどに、車体が鮮やかで美しく、また、車内空間が快適なのは、

整備士の皆さん、毎日丁寧に保守業務を行

ているからである。加えて、緻密な点検業務

を日夜365日絶えず行い、安全運行を死守

している。

電車に乗り、どんな音楽を聴こうか。踏切

の音や、走る音に耳をすましながら四季折々

美しい景色を楽しむのも良いだろう。目的

地まで、どんな本を読もうか。ゆったりシ

トに腰掛け目的地まで寝つても良いだろう。

三岐鉄道ならではの空間で、「あなただけの電

車時間」を考え、過ごしてもらいたい。

三岐鉄道の車両たち、開業からの50年。
(南野哲志・加納俊彦)
「貨物鉄道博物館 OFFICIAL GUIDEBOOK 第3版」
地域活性化に地方鉄道が果たす役割
太平洋セメント 藤原工場 工場長 川辺孝治氏



三岐鉄道掌編小説

三岐鉄道をテーマにした小説をGCI WEBで公開します。三岐鉄道にまだ乗ったことがない人も、小説を読んで乗車気分を味わっていただけると嬉しいです。



<https://www.inabe-gci.jp/>

車の貨車が列を成し、その背後に藤原岳が見えるという。貨車の魅力に「力強さ」を掲げ、佐藤直志さん平成20年に入党し、今年で勤続13年目を迎える。

神奈川県で生まれ育った佐藤さんは、幼少期から貨車が大好きで、操車場で一日中眺めていたという。大人になり、全国を旅しながら貨車の写真を撮ることが趣味となり、偶然出会った鉄道雑誌で三岐鉄道を知る。当時(2000年~2002年頃)三岐鉄道は、中部国際空港建設にあたり、太平洋セメント藤原工場から四日市港に向けて一日10往復、藤原岳の土砂輸送を実施。2年半で474万トンもの土砂を輸送した。貨車での輸送が全国ではここだけだったこともあり、佐藤さんは何度も撮影に訪れたという。加えて山も空氣も綺麗なこのまちに惹かれ、三岐鉄道の入社試験を受けることに。結果は見事合格! 三岐線東藤原駅での貨車入換業務等を経験後、運転士試験にも合格。幼い頃からの夢を、この地で叶えた。

小さい頃からずっと、「外」から眺めてばかりいた貨車。けれども、「中」から見る景色はやはり格別だという。

三岐線丹生川駅を出て、三里駅までに向かうカーブでの後方確認の際、運転席から外へ目をやると、全長200メートルにもなる16

度も撮影に訪れたという。加えて山も空氣も綺麗なこのまちに惹かれ、三岐鉄道の入社試験を受けることに。結果は見事合格! 三岐線東藤原駅での貨車入換業務等を経験後、運転士試験にも合格。幼い頃からの夢を、この地で叶えた。

小さい頃からずっと、「外」から眺めてばかりいた貨車。けれども、「中」から見る景色はやはり格別だという。

三岐線丹生川駅を出て、三里駅までに向かうカーブでの後方確認の際、運転席から外へ目をやると、全長200メートルにもなる16

度も撮影に訪れたという。加えて山も空氣も綺麗なこのまちに惹かれ、三岐鉄道の入社試験を受けることに。結果は見事合格! 三岐線東藤原駅での貨車入換業務等を経験後、運転士試験にも合格。幼い頃からの夢を、この地で叶えた。

このような厳しい状況下であっても、鮮度を落とさず、売れ筋を無くさないよう、お客様の信用を守ることだけを意識し続けた。「必ず将来、こちらが優勢になる時が来る。今は耐えて、その時が来たら打って出ろ!」そう、教わったという。

「だから、『今』は耐えて、耐え抜くのみ。バ

ネで例えると、今はギュッと力を蓄えて、打つ

て出る時に、力を思いっきり解放するよう

感じ。ただ、どこまで耐えられるのかは分か

らない。未来が見えず、退職を考える人がい

るのも事実。今の自分の立場で、彼らに『将

來は大丈夫だから!』と伝え、明るい会社を

つくつしていくためには、どうしたら良いのか

と、最近よく考える」と、佐藤さんは話す。

「今の状況がいつまで続くか分からない。だか

らこそ、ささいなミスや事故を起こして、地

元にそっぽを向かれるのではなく、基本に忠

実にしっかりやついて行きたい。コロナが収束

に向かう頃、『安全で安心な鉄道だから、どう

ぞご利用くださいね!』と、声を大にして皆

さんに強く言いたい。鉄道の信用度を上げる

ためにも、『今』がその土台を改めてつくる時

だと思う」と。ただ、コロナのトンネルをい

たという。

心底、鉄道が好きな佐藤さんだからこそ、日々感じる想いは人一倍である。

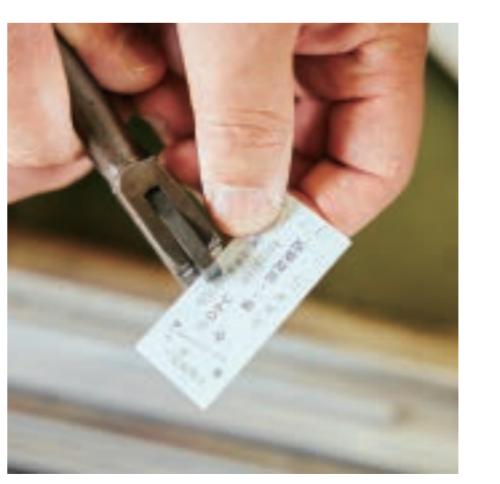
この仕事を就いて良かった」と、胸が熱くなつたという。

心底、鉄道が好きな佐藤さんだからこそ、日々感じる想いは人一倍である。



ロールに出かける、心強い用心棒のようだ。

このまちでこれからも走り続けるであろう、三岐鉄道。闇夜を抜けたその先に、黄色い列車が眩しくくらいに映えるほど、美しい青空が広がっていることを心から願う。



市議会は みんなの声を 力タチに 変えるところ

いなべの未来に大きく関わる重要なモノ、コト、トキ。私たちにどんな強い想いがあったとしても、市議会で議決されなければカタチになりません。その議決権を持つのは、市民から選ばれた「市議会議員」だけ。志を持ち、市民の皆さんに耳を傾け、公平にまっすぐ信頼に応えようと、日々活動しています。市議会はまさに、みんなの声をカタチに変えるところ。市長・市議会という二元代表制のもと、議員同士の討議^{※1}を重ねて議決をしています。私たちが、市議会や市議会議員の役割を理解して、関心を高めれば高めるほど、私たちの暮らしや、市民活動もさらに充実したものになるのではないかでしょうか。

(※1) 結論を出すため、互いに意見を出して検討すること。

市議会議員は、こんな人！

「市議会議員って私にはとてもムリ」と、思い込んでいませんか？市議会議員になるには、学歴も実績も肩書も関係ありません。一定の要件を満たせば、誰でも市議会議員選挙に立候補できます。あとは、選挙で市民の賛同を得て当選するかどうか。チャンスの扉はいつも私たちに開け放たれています。

市議会はまちの方向性や、私たちの重要な行政サービスを議決する機関。だからこそ、市議会議員は議決する際に、さまざまな角度からいなべ市全体を見て、公平に判断します。いわば、市民の皆さんのために尽力する人なのです。

**下記などの要件を満たせば
誰でも立候補できる!!**
学歴・資格は関係ない

Japanese Nationality	3+ months	25+ years	30万 YEN
日本国民	3ヶ月以上いなべ市内に住所がある	満25歳以上	供託金として30万円必要



議員をやっていてよかったこと、
やりがい、つらいことは？

地域の皆さんの願いや困っている声を市議会で発言したり、行政側に提案したりして解決や改善すると、議員をやってよかったなあ、と思う。また、市民の皆さん代表として行政をチェックするのもやりがいを感じる。議員の仕事は可視化出来ない部分も多く、議員及び議会議員の仕事や役割をもっと市民の皆さんに知ってもらうことが必要だ。

議員のなり手が少ないといわれているが、課題と思われることは？

議員報酬が少ないのでホンネ。子育て世代や働き盛りの人が議員報酬だけで生活するのは厳しいと思う。選挙で当選しなければ継続できない不安定な仕事。市議会や市議会議員の仕事がどういうものなのか知られていないのも、議員のなり手が少ない原因の一つ。市議会と市議会議員の仕事や役割をもっと市民の皆さんに知ってもらうことが必要だ。

※市議会議員に無記名アンケートを実施し、その回答を元に作成

市議会議員のホンネ

いなべを
力タチ
づくる

また観戦? いや、市民なら 参戦だぞ。

市議会の仕組みを自分事として知れば
まちづくりはもっと面白くなる。

私たち市民と市議会との関わりについて

ぜひ知ってほしい！【陳情・請願】

行政の仕組みや制度で市民の皆さんが困っていることや、「こうしてほしい」と思うことについて実情を訴え、対応を求める方法として、市議会へ陳情書や請願書を提出する制度があります。陳情と請願の大きな違いは、提出する文書に市議会議員の紹介をつけるかどうかです。「請願」は、憲法で国民に保障された権利。紹介議員が必要で、提出されると議案と同じように内容を審査します。そして、議会で採択^{※2}されると、その実現を執行機関に働きかけます。「陳情」は請願と違って、紹介議員を付けずに提出します。また陳情が提出されたら、その写しを各議員に配布してどのように対応するのか検討します。陳情と請願について詳しくは、いなべ市議会のホームページ、もしくは議会事務局までお問い合わせください。

(※2) ある意見や案などを、よいものとして選び取ること。

市議会議員は「私だけの味方」でなく 「市民の皆さんに公平な代表者」

いなべ市議会における最高規範として制定されている「いなべ市議会基本条例」第5条では、議員は活動の原則として、「公平かつ公正な市政」へと発展するために討議を大事にして、議会での合意を形づくっていくことなどが示されています。また同じく「いなべ市議会政治倫理規程」第3条では、「常に市民全体の利益の実現を目指して行動すること」と表記。つまり市議会議員は、公平性を欠いて誰かが個人的に有益となるように働きかけることはタブーですし、私たちもそのような意図を含ませて、市議会議員とは関わらないように、高い意識を持つことが必要です。時に議員は、市民の多様な意見を知ろうと個人に話を聞く機会があります。しかし、聞いてくれたからといってあなただけの味方ではありません。常に公平な目線で、私たち市民全体を考えて動く人なのです。



議会審議の流れ

1 市長が市議会に議案を提出。提案理由を説明する。

2 委員会^{※3}で、行政の担当部署から詳しい説明を受けて審査。

3 再び本会議へ。委員会で審査したことを委員長が報告し、採決を実施。
※3 議員が所属する委員会に分かれて職員から説明を受けて審議する場

【いなべ市議会議員選挙の選挙期日（投開票日）】令和3年11月14日(日)

【期日前投票の期間】令和3年11月8日(月)～11月13日(土)

彩電館たかはし

昭和初期、大戦の影響著しい日本で、ラジオの組み立てを始めた
【高橋ラジオ店（現・彩電館たかはし）】
店主・高橋利尚さんに伺った。

80年の歴史、受け継がれる想い。

— 高橋ラジオ店の創業から約80年とのことです、まずはお店の成り立ちを教えていただけますか。

高橋利尚さん（以下、高橋） 高橋ラジオ店は祖父が創業者です。もともとはタクシー業を営んでいたらしいのですが、タクシーの営業ルール変更に伴い、業種を変えラジオの組み立てを始めたそうです。それが昭和一桁台のことです。ちなみにこれは地元の方が書かれた日記で知ったことなのですが、阿下喜で最初の白黒テレビを販売したのが祖父だったようです。

— 高橋さんご自身の歴史もお伺いしたいです。

高橋 でんき屋の子どもでしたから、最新のシートに入った曲を繰り返し聴いていたのを強く記憶しています。それがきっかけのか、今でも音楽は大好きです。学生時代はバンドも組んでいました。ロック、大好きです。

— きっと大好きですね。テレビが希少な時代のことですか。

高橋 そうですね。テレビが各家庭に普及するまでは、一台のテレビに近所中の人が集まって見にきていたようです。当時は受信環境が悪くて大阪からの微弱な電波しか拾えなかつたようだ、祖父がお客様宅の屋根に登つてアンテナを持ちながら、電波を拾える位置をあっちでもないこっちでもないと探していくらしいです。時代を感じるでしょ（笑）

— 活気ある商店街の様子が目に浮かびます。

高橋 「まちに根付くお店」といった感じがします。お店だけでなく僕自身も、阿下喜の方に見守られて育ったんだな、という感じがします。

— お店を継ぐと決心されたのはいつ頃でしょうか。

高橋 大学を卒業して実家に戻ってきた時で、父に「この店は継けられるのか」と聞い

たことがあります。すると父は、「電気製品は使えば壊れる。その時に、新調するのではなく直してあげるお店はこれからも絶対に必要だ」と答えたんです。それですなり、じやあやってみようかなと思いました。あの時の父の言葉は、お店を続ける中でもっとも大切にしていることの一つです。電気製品は暮らしと密接に関わるものですから、ホームドクターのようにお客様に寄り添えるお店が必要なんです。ここ阿下喜では彩電館たかはしが、

— 阿下喜で続ける意味、まちと人への想い。

高橋 「人が住み続ける」ということが第一に重要だと思っています。いなべ、というか阿下喜だけを見ても、ここ10年で色々と変化がありましたかと思います。いなべ市庁舎の新設もなんですね。ここ阿下喜では彩電館たかはしが、その役割を果たす一翼を担いたいと考えています。

— いなべ市やご自身の将来について、展望や想いをお聞かせください。

高橋 「人が住み続ける」ということが第一に重要だと思っています。いなべ、というか阿下喜だけを見ても、ここ10年で色々と変化がありましたかと思います。いなべ市民の中で何か新しいことをやろうという動きが見えるようになつてきましたと感じています。その影響でいなべに移住してくださる方も増えたりしてますよね。そういった動きがある中で、彩電館たかはしとしてはまずお店を続けること、そして

ます。まだお客様から、僕が子どものころの話をされることがよくあります。

高橋 「自分が生まれ育ったまちである」とい

うのは大きいですね。お客様とお話をすると、それこそもう、半日くらい雑談をする中

こともあるのですが、その中で、自分の知ら

ない阿下喜の姿やここで暮らす人の想いをた

くさん知ることができたんです。それで「やつぱり阿下喜はいいな」と。それで自分も阿

下喜の一員として、生まれ育ったまちでできることがあるのかもしれないと思いました。

僕は今年で51歳になりましたが、体が動く限

りはでんき屋を続けようと考えています。あと20年でお店は100周年。その頃には僕は70歳ですが、まだまだがんばっていると思います。

— 一人ひとりの想いがまちを良くしているとも言えますね。

高橋 そうですね。この仕事を長くしていると、お客様の暮らしや生活、それらに紐づく想いが見えてきます。僕はそれを人の「情」だと思っているのですが、僕の仕事はその情に助けられているんだと感じます。また、その情を繋げていくことこそが、僕の役目であり、人生だと思っています。言い換れば「でんき屋が人生」ということになりますね。

— 一人ひとりの想いがまちを良くしているとも言えますね。

高橋 そうですね。この仕事を長くしていると、お客様の暮らしや生活、それらに紐づく想いが見えてきます。僕はそれを人の「情」だと思っているのですが、僕の仕事はその情に助けられているんだと感じます。また、そ

の情を繋げていくことこそが、僕の役目であ

り、人生だと思っています。言い換れば「で

んき屋が人生」ということになりますね。

— 高橋さんが紡ぐ、お店といなべのこれからをもっと見たいと思うようになりました。

高橋 本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

— 高橋さんが、お店といなべのこれからをもっと見たいと思うようになりました。

高橋 本日はお忙しい中、本当にありがとうございました。

募集

Recruiting

inabe NOWTOは、いなべ市の皆さんと共に《まち》をつくっていく感覚で、アイディアを出し合って、共につくりあげていくコンテンツのひとつとして、生まれました。このまちの未来のために、皆さんの《声》をぜひ、届けてください。

No.1 inabe NOWTOでは、共にこの媒体をつくってくださる方を募集しています。

どんな形で関わっていただけるかを明記いただき、ご応募ください。
(例) カメラマン、ライター、イラストレーターとして関われる...など

No.2 inabe NOWTOで取り上げて欲しいこと。

No.3 「eat 紡ぎ」企画では、いなべで暮らす皆さまの、ご家庭に受け継がれている味・お料理などを教えてくださる方を募集しています。

(例) ご飯のお供(おかず、お漬物、汁物)、甘味(和菓子、洋菓子)、調味料(お味噌、醤油)、お節の一品、生産者さんだからこそ知る美味しい野菜の食べ方...など

応募先

① メール info@inabe-gci.jp

② 郵送または持ち込み

〒511-0428 いなべ市北勢町阿下喜31番地 いなべ市役所 2階
グリーンクリエイティブいなべ事務局
※持ち込みの場合の受付時間: 平日 9:00~17:00

【お問い合わせ】
(一社)グリーンクリエイティブいなべ TEL: 0594-72-7705

いなべ市全域を巡るスタンプラリー「Hyggeの秘宝を探せ！」が再び開催！まちづくりの拠点「にぎわいの森」から市内観光スポットを回遊できる3ヶ月間。家族や仲間を誘って豪華な秘宝をGETしよう！

いなべ市からのお知らせ

2021 Hyggeの秘宝を探せ！

いなべ市全域を巡るスタンプラリー「Hyggeの秘宝を探せ！」が再び開催！まちづくりの拠点「にぎわいの森」から市内観光スポットを回遊できる3ヶ月間。家族や仲間を誘って豪華な秘宝をGETしよう！

スタンプラリー開催期間

7/16 [fri] — 12/28 [tue]

三岐鉄道に乗ろう！

北勢線「楚原駅」、三岐線「東藤原駅」もスタンプラリースポットになっています！ぜひ、この機会にご乗車ください。

*スタンプを押すためには、入場料または、運賃をお支払いいただく必要があります。

参加方法ご案内はこちちら

詳しいご案内はこちちら

詳しくご案内はこちちら

詳しくご案内はこちちら</